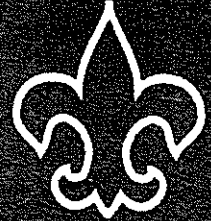


REINANZAKA SCOUT CLUB



スカウトOB・OGの情報交換や交流の場／2004年1月31日発行

霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内 107-0052 東京都港区赤坂1-14-3 電話：03-3583-0403

スカウトクラブ総会の開催

2月22日(日) 霊南坂教会

来たる2月22日(日)に霊南坂スカウトクラブの総会が霊南坂教会で例年通り開催されます。同日は、スカウトサンデーとしてスカウトも参加する礼拝も行われます。

礼拝に参加可能な方は是非、礼拝か

らご出席ください。総会のみにご出席でも大歓迎です。

できるだけ、以前のスカウト仲間と誘い合わせてご出席ください。会員登録されていない方はこの機会に是非お願いします。

礼拝と総会との間には、スカウトクラブから現役スカウト達へのプレゼントとして、昨年は和太鼓グループの演奏でしたが、今年はマジックショーです。子供達の驚く顔や不思議そうな顔を見たい方、マジックショーに興味ある方は1時頃に、総会のみの方は2時頃にご来場ください。

ちなみに2月22日はBPご夫妻の誕生日です。

カブ隊の夏キャンプ

カブスカウト隊副長 増山 孝子

キャンプの醍醐味は何と言っても大自然をバックにプログラムを計画出来ることです。

今年度は『江戸開府400年』のテーマで一貫性のあるプログラムを展開してきましたので、キャンプのテーマ



も「NINJYA」にいたしました。活動のハイライトは2日目の追跡ハイクで半日を費やしたワイドゲームです。

宿泊の河口湖ユースホステルは1960年開業とのこと、当時は自然に囲まれた閑静な場所だった様ですが、現在では住宅や畑に囲まれているため、宿舎を起点とする追跡ハイクは、電車で移動する事17分の三つ峠駅より展開されました。

「NINJYA」忍たま隊の伊賀組と甲賀組は、暗号文を解読後、甲斐の国を治めていた武田信玄の《まいぞうきん?!》を発見するために競います。追跡ですから目印を見落とさず、全員が協力しなければなりません。駅の裏山と思ったであろうハイキングコースですが、いざ登り始めると見晴らし台はあるものの頂上が無く、上り下りの連続です。

照りつける太陽に汗まみれになったスカウト達と木陰に入り、一息すると高原の涼風が疲れを癒してくれました。

美しく、豊かな大自然は私達がそこに足を踏み入れるだけで心と身体を健

(次頁につづく)

(前頁から)

康にし、楽しい気分させる力を持っています。

信頼、協力、忍耐、創造性、経験を広げ、伸ばす事により社会的、肉体的、精神的成長の時を与えてくれます。

今年のキャンプも無事終了する事が出来ました。大自然に感謝いたします。

GSシニアの 夏キャンプ

GSシニアリーダー
古谷 久代

'03年のシニア夏キャンプは全日程、難民をテーマにして行いました。

昨年4月の年度初めに一人ひとりのスカウトが今、気になっている事を思うままに書き出し、それを分野別にくくるという作業をしていく中で、意外(?)な事に、戦争、難民、いじめ、平和等について考えているスカウトの多いことが判りました。

当時の状況として、イラクへの米国の攻撃のニュース等、影響しているこ



とと思います。

そこで、平和を創り出すために、何ができるのか、考えることにし、4月から戦争とそれによって生まれる難民について学んできていたのです。

夏キャンプは、スカウト達が難民についてより深く学べる良い機会とリーダー達は考えました。

今年度のキャンプはBSの山中野営場で開きました。

1日目。設営。夜のゲームの時間「ようこそ、R・P・G(ロールプレイングゲーム)の世界へ!」という言葉で難民ゲームのスタートです。

2 まず、家族分けをしました。一人ひ



とりに性別、職業、年齢、性格などが与えられます。〔お父さん・42歳・教師・信頼されている〕という具合です。

これが後で重要な意味を持ちます。暗やみで家族を探し、協力しないと成り立たないゲームをいくつかしました。

楽しくキャンプをすごしている2日

やくたどり着いた難民キャンプ(テントに寝袋だけ置いてある)で、夜を過します。

この夜のスカウト・OWNには西脇先生に難民を主題でお話をいただきました。

3日目、難民キャンプの朝、配給されたのは粉と水、ジュース、チーズだけです。僅かな薪でパンを焼き、ポソポソ食べました。スカウト達もようやく自分達が難民になってしまったと気づきました。冷たく降り続く雨が皆の気持ちを一層惨めにしてくれました。

朝食後、難民キャンプの所長からの連絡で国外へ脱出することになりました。わずかな身の回りのものを持って出発です。

森の中を役に立ちそうなものを手に入れながら行くと、自転車を発見! 貸してもらいたいのですが言葉が通じません。(手話を使いました)何とか、身振り手振りで交渉し、大切なお金を使って、自転車をGET。国境まで行くことが出来ました。

その後は、また徒歩で行きます。途中、新しい国で生活するために大人は職業訓練を受け、子供は学校で勉強します。

配られる食糧はおにぎりとお水だけですし、言葉は相変わらず通じにくくて(全部英語なので)苦労はたえません。

様々な苦難を乗り越え、多くの人々の助けを得て、ようやく、平和で豊かな国(温泉)へ到着。しかし、難民に与えられたのは、僅かなお金と少しの品物。

分け合って使いますが、周りの豊か

日の午後、突然、戦争が勃発します。

皆は訳の判らないまま、緊急事態に対処するため、家族を捜し、シェルターに逃げ込みます。

落ち着いたところで、携帯電話に入ってくる情報をもとに、シェルターを出て(以後、これが唯一の情報入手の手段になります)、負傷した家族に応急手当を施し、国内の安全な場所へ移動していきます。

途中、食糧をなんとか手に入れ、又、逃避行に必要なお金をアルバイトで手に入れます。

父親が教師であることは何の約にも立たないのです。あちこち歩いてよう

な人々と比べなんと住びしいことでしょうか。結構つらいものがあります。

そんな所でしばらく生活していると、新しい情報が入ります。本国ではようやく戦争が終り、避難していた人々が帰国しているとのこと。

豊かな国に別れをつけ、そこで働いて得たお金もすべて使って、今度は海を越えて(湖をボートで)帰りました。

多くの人々に助けられて無事生還出来たのです。

それぞれのポイントで、どの様な事が行われたか、スカウトクラブの皆さんは容易に想像できると思います。結構楽しい事もありましたが、実際の難民が直面する要素をできるだけ取り入れました。

今は、年度末に広島へ行くべく計画しています。約60年前、日本も戦争を経験し、多くの悲しみの上に今の日本がある事、たとえどんな理由があっても戦争は絶対いけないことを知って欲しいと願っています。そして、来年度は環境問題へと集会を発展させていくつもりです。今のスカウトは一見、ドライで、行儀悪く、何にも覚めていて、扱いにくいのですが、彼らを取り巻く環境はある意味で、昔より劣悪で、厳しいものがあります。

今の世にあるスカウトとして、世の中の動きに合わせてながら、何が学べるか試行錯誤の歩みです。

どうぞ、これからお諸先輩方の祈りと励ましと、ご協力を宜しくお願い致します。

『カントリー大作戦』

ボーイスカウトでは、毎年9月に日連のプログラムにそってカントリー大作戦を行っています。

カントリー大作戦とは、空き缶の缶を拾う(採る)のトリーにかけてカントリー大作戦と云う様です。(このセンスは、いかなるものか?)

今年は、9月13日(土)にビーバーのちびっ子からBSまで30余人が参加し、六本木、神谷町周辺を3グループにわかれて空き缶集めを行いました。このプログラムに、スカウトクラブより、加藤氏、古矢氏又、倉持が参加させて頂きました。

スカウト達と一緒に3グループに分かれ、それぞれ暑い中汗だくになりながら1時間あまり教会周辺のカントリーに励みました。

各種ボランティア 情報

個人で、あるいは仲間と時間のあるときに出来る各種のボランティア情報をお知らせします。

詳しくは、それぞれの事業を行ってあるNPOやNGOにコンタクトして下さい。

1) マザーランド・アカデミー・インターナショナル「命の尊さを行動で子供たちに伝える母の会」

1982年に活動を開始。子どものいじめに直面した5人の母親が発起人。この活動を通して子供たちは、いじめる側から、たった一人でもいじめられる側に立ち、人に尊敬されるための勉強から、人を尊敬するための勉強をするようになったそうです。「グチと昼寝は死んでから」をモットーに活動を続け、今では良質の井戸、植林場、学習所、農場をセットで事業とし、衣料、米、缶詰、等々を年間25回ほど船便を出しているそうです。

連絡先：平日21:00~22:00
03-3450-5829

2) (社) 日本キリスト教 海外医療協会の

使用済切手・カード・書き損じはがき等を送る⇒バングラディッシュ・カンボジア・ウガンダに医師・看護師を派遣。2002年度は2000万円の資金となり多くの医師団を派遣したそうです。送り先：東京は〒169-0051

新宿区西早稲田2-3-18-23

3) 国境なき医師団

1971年にフランスで設立。1日50円キャンペーン。ワクチン2本分に相当。このワクチンで多くの子どもが救われます。今年の緊急事態発生国は「リベリア」です。6000円で300人に緊急栄養食を提供できます。

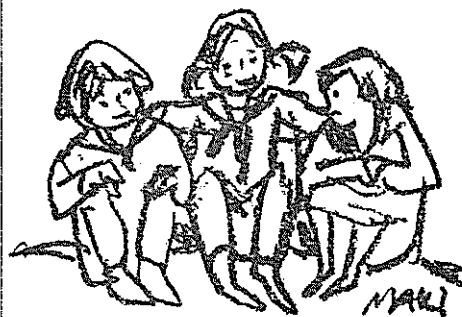
連絡先：〒161-8790

新宿区下落合2-4-10

その他にも色々な活動があります。身近な地域での障害者運動会のお手伝い、老人ホームへ毎週、あるいは必ずつき1回はボランティア(歌、散歩、クラブ等々)、図書館で読み聞かせ。やれる事を、やれる時に!!

キャンプファイヤーで 歌の指導

9月6日恒例のキャンプファイヤーが行われました。今年は、初めてスカウトクラブもプログラムに参加させていただき、5分という短い時間でしたが10人余りのメンバーにより、昔よく歌ったのに今は歌われていないと云う事で「ハンスカレーベ」1曲で残念ではありましたが、スカウト、リーダー達と一緒に歌い、楽しいひとときを共有する事ができました。これを機会に、歌い継がれていくようになれば、と願います。



バスピクプロジェクト のお知らせ

日取りと目的地決定!

2004年4月29日『緑の日』(祝日)に決まりました。目的地は、片道1時間半程の千葉県にある昭和の森という広大な土地に芝生の広場が点在し、小径と、緑の木々に囲まれたバスピクには、最適の場所です。

この昭和の森は千葉の団でスカウト活動をなされている、OBの渡辺氏より紹介された場所です。(渡辺氏には、感謝・感謝)

参加人数は、スカウト、リーダー(BS・GS)、父兄、兄弟、OB・OG総勢100人を予定しています。さあ、今年のカレンダーの4月29日に赤丸を書いてくださいネ!

遠い昔、スカウトの時に参加したバスピクの思い出や、楽しかったプログラム、ソングetcの情報をお寄せください。現役のスカウト、リーダーにも同じようにバスピクの楽しさを味わっていただければOB・OGとして大変うれしく思います。

怖い！『ゆでガエル現象』

GSジュニアリーダー 光野実江

私たちJr.では、9月から前回の集会において環境問題をテーマとするプロジェクトに取り組んできました。みなさんもまずは考えてみてください。どの程度答えられますか？

I 循環型社会って何？

II ゴミ問題と3つのRって何？

III なぜゴミ問題が大事なの？

第1回目は、大切な資源ということで、電気や水道、ガス、紙などの資源について事前に調べてきてもらい、調べてきたことを発表すると共に、それらを節約するにはどうしたら良いのかを話し合ってみました。

そして、第2回までの課題として、先ほど皆さんに考えていただいた、上記の3つの質問を考えてくるようにしました。

第3回目は「地球と仲よく暮らすための工夫をしている人たち」というテーマで、平和島にある産業廃棄物処理工場の見学に行きました。

そこはビルなどの建物を壊した際に出る建設廃棄物、コンクリートの塊から木くずや鉄くずを除去して碎石し、道路の路盤材に再利用するための処理を行っている工場です。

スカウト達には少し難しかったと思いますが、いい経験になったと思います。

第4回目は西武文理大学の先生にお願いをして、教会で環境問題について講義をしていただきました。

さて、みなさんは上の質問に答えられたでしょうか。何となくわかるけれ

ど、きちんとみんなの前で説明してほしいといわれると困ってしまう方はいらっしゃいませんか？

私はわかっているようで、上手く表現できませんでした。そのため、このプロジェクトに取り組むのにあたっていろいろと調べてみました。

集会でスカウトに質問してみると、すでに学校で勉強したらしく、ほとんどのスカウトはIとIIを答えることができました。

しかし、IIIは難しかったようです。なぜゴミ問題が大事なの、この質問が一番重要なのではないのでしょうか。

I 循環型社会とは何か。これまでは大量生産、大量消費、大量廃棄の社会だったものを、①廃棄物の発生抑制、②リサイクルによる資源の循環的な利用、③廃棄物の適正な処分が行われることにより、天然資源の消費をできるだけ節約し、廃棄物を捨てることなく、循環資源として再利用し、環境への負荷をできる限り少なくする社会のことです。

II ゴミ問題と3つのRとは何か。①まず、できるだけこみがでないようにReduce (リデュース) する。使い捨ての製品や余分な包装をできるだけやめる。ものを大事に使って、長持ちさせたり、節約したりする。②次に、使い終わったものをもう一度使うReuse (リユース) する。詰め替えの製品やリターナブル製品を進んで使う。みんなでお互いにいらないものを交換したりする。③それでも出るゴミは、できる

限りRecycle (リサイクル) する。まちのゴミはきちんと分別して出し、リサイクルしやすくする。事業者は自分達が出したゴミを責任を持ってリサイクルする。

III なぜゴミ問題が大事なの。①もうすぐゴミ処分場がいっぱいになる。(処理場の残余年数は一般廃棄物で約12年、産業廃棄物で約4年) ②処理の仕方が悪いとダイオキシンなどの有害物質をだす。③天然資源がなくなってしまう。(可採年数はあと40年から60年) ④地球温暖化や自然破壊が進む。

以上のようなことがあげられます。これらの状況を無視し続けられれば、私たち人間や動植物の生命は奪われ、地球は何もなくなってしまいます。

そのために私たちは現状を把握し、解決策を導き出さなければいけないのです。

普通、カエルはお湯にはいったらすぐに飛び出ます。しかし、だんだん温かくなっていったらどうでしょうか。

気がついたときにはもう温度はかなり上がっていて「ゆでガエル」になって死んでしまうというお話です。

つまり、急に上がるのではなく、段々と温度が上昇していくため、自分達は気がつかず危機感を全く持っていないかったために「ゆでガエル」になってしまったのです。

この「カエル」とは私たちのことです。「ゆでガエル」にならないために、一人ひとりが危機感を持ち、身近なことから実践していかなければいけないということをこのプロジェクトに携わった全員がひしひしと感じました。

あなたは「ゆでガエル」になりたいですか？



夏キャンプ

ガールスカウトのジュニア部門の今年度のキャンプはシニア、レンジャーと合同でした。7月28日～31日ボーイスカウト山中野営場。

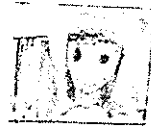
キャンプのまとめ：紙芝居

「ガールスカウトキャンプ行き」

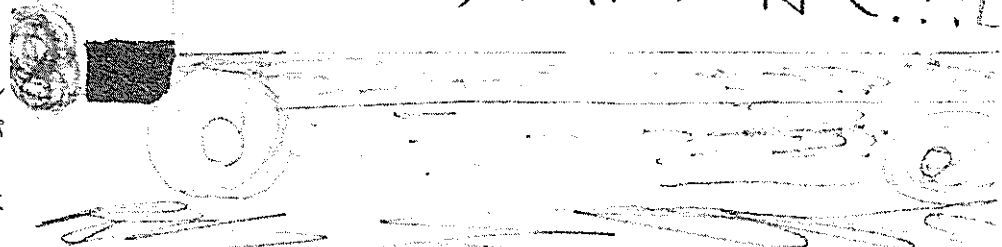
バスの中、歌、たくさん歌ったヨ。

設営：テントを張るのにグランドシートを広げてポールを立てて…私のパトロールは4人。すご〜くたいへん。

キャンプクラフト：竹のテーブルは練習しておいたからすぐ出来上がった。



ガールスカウトキャンプ行き!!!



がらのフォト・ディスカッションが行われ115名のスカウトやリーダーたちが参加しました。自分の最も関心をもった写真にシールを貼るところから始まったフォト・ディスカッションは全員が意見を述べ、それに内堀氏が答えるという形で行われ、終わったあとまで内堀氏を囲んで話が続き光景もあり、スカウトたちの関心のあり方をかんじました。

午後6時からは「カレーズの会」理事長でアフガニスタン人の医師、レシャード・カレド氏の講演と内堀氏のフォト・ディスカッションが今度はスカウトクラブ会員やリーダー、(他の団のGSリーダーも参加しました) 教会員などの約60名の大人を対象に行われました。アフガニスタンから日本に留学し、その後30年間日本で医師として活躍するレシャード氏は日本語も流暢で、現実を直視してほしいという氏の講演は人々に改めて現状の悲惨さを思わせるものでした。

プロジェクトではこれを機会にアフガニスタンの子供たちと友達になる方法はないものかと、次のステップに向けて検討を始めています。

レシャード氏の講演要旨

現在のアフガニスタンの状況をお話します。新聞にはイラクの戦争で毎日アメリカ兵などの死亡記事が載りますが、イラクの人たちがどれほど死んでいるのかは記事になりません。実際にはたくさんの尊い命が犠牲になっているのです。私たちは社会や他者に関心をもたなければなりません。そうすればこういう悲劇はさけられるのです。(次頁につづく)



汚水の穴掘り：交代でほっていると、フォークが出て来た。みんな一生懸命やりました。

食事作り：あっちこっち…火がなかなかつかなくて大騒ぎ。リーダーの手をかりて、やっと出来上がり。

スカウトズオン：ちょっと静かにした。風を感じた。

花火：パチパチと線香花火。ドローンビューと打ち上げ花火。

ネーチャーゲーム：方位磁石を使ってポイントめぐり。食材さがし…これがないとお昼のごはんにありつけない。大変だったけど楽しかった!!

キャンプファイヤー：パトロール毎の劇。ナレーター言葉。暗くて読めなくてアドリブ。これは失敗、悲しかった。でもシニア、レンジャーと一緒にだったので楽しい夜でした。

撤営：今日は最終日。撤営をやりま〜す。あれあれベグを全部はずしたのは誰だ?? たいへ〜ん。

という大変な最終日でガールスカウト4団ジュニア夏キャンプは幕をとじたのでした。

(ジュニア部門リーダー記)

アフガンプロジェクト

写真展と講演会

11月29日(土)午後3時からスカウトを対象とした、写真家の内堀毅氏の撮影したアフガニスタンのいろいろな情景の写真の展示と、写真をみな

(前頁からつづく)

2001年9月11日にNYでおきたテロ事件で3000人以上の方が亡くなりました。そしてその報復爆撃で1万2000人のアフガン人が死んでいます。欧米人の死者は報道されますが、アフガン人の犠牲者は報道されません。

9・11のようなテロは突然起きたのではありません。アフガンは1979年のソ連侵攻から23年の間に200万人が犠牲になっています。農業国の農民が畑を耕そうにも地雷が2000万個も埋められているので働け

ません。学校も病院もなくなり、人々は食べられず、砂漠の中にテントをはって生活している人たちもたくさんいます。

ソ連侵攻の翌年、85キロの薬をかかえてアフガンに帰りましたが、その薬はたった3日でなくなってしまいました。それほど欠乏しているのです。夜は氷点下になる中で着るもの、寝具もなく飲み水もなく死んでいく人たちがたくさんいるのです。

雨水でおしめを洗っている少女がいたので、よけい病気になるよ、と言っ

歳以内に死亡する子どもが26%います。戦争のために働き盛りの男性がいません。子どもたちは学校にも行かずに生活を支えているのです。

今月、アフガンに新しい憲法ができて、国民会議で承認されることになっていますが、いくら秩序ができて、人間には夢がなければ生きていく意味がありません。

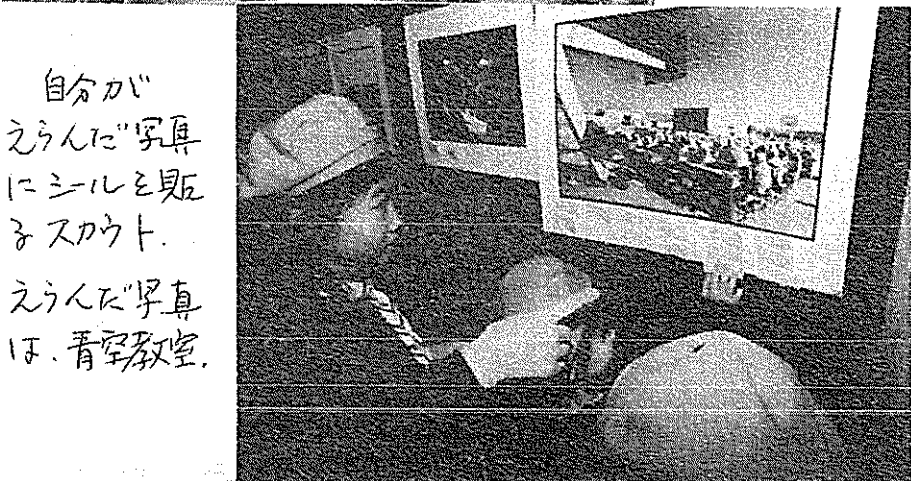
今のアフガニスタンの人々には夢がないのです。そのアフガニスタンの子どもたちにスカウトを作ってあげようという夢は素晴らしいと思います。でも、まず現状を知ってください。日本や欧米、アジアと同じ感覚で物事を考えてはいけません。アフガンにはかつてボーイスカウトもガールスカウトもありました。でも今はそんな余裕はないのです。今は生きていくすべを見つけることで精一杯なのです。

まず、自分たちが世界に目をむけることから始めましょう。同じ地球に住む人間、仲間として知ることが一番大切なことだと思います。

(文責 アフガン・プロジェクト)



レシャット・カレット氏 ←



自分がえうんた写真にミルと見るとスカウト。えうんた写真は、青空教室。



内囀氏とフォトディスカッション

たら、雨が降ったから洗濯できるので、それでなければ砂で洗って使っている事を知り、現状を知らない自分が恥ずかしかった。レストランからでてきたら残飯を待っている子どもがいたのでレストランに戻ったら従業員がすでに食べていた。それくらい、食べるものが不足しているのに、日本の小学校の

給食では運べないほど残飯がある。

ひとりの人間として、地球に住むものの一員として生きていることを、考え直すことが大切。最近の日本人は「もったいない」ということを忘れてる。アフガンでは、飲料水が飲めるのは13%の人たちだけ。20%の女性がお産の時に亡くなり、生まれて5

40年目の

リユニオン

木村 恵子

私がメキシコのアワカバニアで開かれたジュリエットロウ・セッションの日本代表に選ばれて参加したのが1963年のことでした。

東京オリンピックの前年のことですから、若い人たちには石器時代の出来事に感じるかもしれませんね!

世界10カ国からそれぞれふたりづつの代表が送られて(アメリカは主催国なので7名)、ふたりのリーダーを含めても27人という少人数のセッションでした。

3週間もこの仲間と寝食を共にしたのですから、親しくならないわけがありません。私と同じように英語が得意でない人も何人かいましたが、そこはスカウトという共通項があり、しかも同じティーンエイジャー同士。ボーイフレンドの話で盛り上がりたり、ゲームや歌を歌い、ピクニックや地元のスカウトとの交換会などをして、たのしい3週間をすごしました。

ふつうなら、これで「楽しかった思い出」として残るだけでしょう。でも私たちはそうしなくなかったの、そ

れから毎年1回お互いの近況を知らせるニュースレターを発行してきました。

結婚したり離婚したり・・・でもみんな仕事を持って医者や大学教授、弁護士、画家などとして活躍している人たちばかりです。国会議員になり、今ではオーストラリアの保健大臣をしている人もいます。

子育ても一段落した25年後の1988年、私たちは第1回目のリユニオンを、リーダーのひとりだったジュリーのデトロイトの家で開き、5カ国から9人が参加しました。

その5年後、1993年には30年ぶりに、なつかしいメキシコのアワカパニアで会い、7カ国から13人集まりました。

35年目はスイスのイバが担当で、スイスのバレーでのリユニオン。この頃になると余裕もできて、母親や夫、あるいは息子や娘を連れてくる人も多くなり、拡大リユニオンになりました。

そして40年目の今年はサンフランシスコ郊外のアシロマというところで会いました。ひとりドタキャンがあつて(オーストラリアの保健大臣のケイが首相からの急な仕事が入ってこれなくなってしまいました)10人でしたが、夫がふたり、子どもがふたり加わり楽しい1週間をすごしました。

リユニオンでは、いつも、自分の問題をひとりづつ話します。離婚した人の悩みをきいたり、子供たちの成長と一緒に喜んだり、仕事での問題を聞いたり、年老いた親の問題を共有したり、自分たちのこれからの生き方をさぐったり・・・

長いこと会っていないはずなのに、不思議に私たちは会ったとたんから、まるで昨日まで一緒に過ごしていたかのように親しく、なんでも話せる仲間になってしまうのです。

国や文化が違って、かかえる問題は世界共通。夜もふけるまで話し込みました。

私たちにとって、最大の共通点は、この40年前のアワカパニアでの出会いが、その後の人生をどんなに豊かにしてくれたかということです。あのときを境に、私たちは世界に目を向けることができるようになったのでした。若いときの衝撃は、その人の人生を変えます。

このような世界のスカウトとの交換の場に、ひとりでも多くのスカウトが参加してほしいと願わずにはいられま

せん。

さて、今回のリユニオンは私が担当の日本です。だんだん年をとってきたから5年待つのは長すぎるということになり、2006年の秋に決まり、みんなすでに貯金を開始しています。(何しろ日本は高い、という先入観があるのです！)

日本のすばらしさをくまなく経験して欲しいと思うので、今から準備を始めています。どなたかいいアイデアをお持ちの方、助けてください。関西方面に旅行したいと思うので、もし、旅行を企画してくれる旅行社の方を知っていたら是非ご紹介ください。

(旧姓 田中)

最近の教育行政の動向から

OB・OGのできることを始めよう

杉原 正

先日新聞等で全国で実施された高校3年生を対象とした「学力テスト」の結果が発表された。国語、英語については目標基準に達していたが、理科、数学については大きく下回り、学力の低下が指摘された。

この高校3年生は学校週5日制が施行されたときからの生徒であるため、「ゆとり教育」のひずみであるとの指摘があり、今後大きな波紋を呼ぶことになります。

2002年4月から学校週5日制が完全実施されたが「学力低下」の不安が提起され、学校教育とくに公立学校においては、ここ数年の間に様々な取り組みが行われています。

例えば、授業の理解度によってクラス分けする「習熟度別授業」、始業・終業式などの行事を少なくする方向での原稿の3学期から「2学期制」への移行、始業前や終業後の「補習授業」、土曜日に学力をつけるための「土曜学級」や「土曜学校」の実施、また「小中一括教育校」「中高一括教育校」の設置、学区を廃止して自由に学校が選べる「学校選択制」が県単位ではなく、市区町村において、それぞれ実施しています。

霊南坂に通うスカウト達、例えばどの行政区に居住しているかによって学校ごとに前述のような条件が違っており、以前のように公立学校に通うスカウトが置かれている教育環境がすべて同じではなくなってきている現実があります。

振り子が大きく振れるように「ゆとりの中での教育」から「確かな学力」へと、教育行政のなかでは「学力最優先」が基調となつていきています。

そのため全人教育としての学校外教育を担うスカウト活動への参加条件や環境が一段と厳しくなっており、入隊してくる子どもも少なくなり、また学

校や受験で途中で止めていくスカウトが多いことも事実であります。

一方では、少年の非行化や凶悪犯罪の低年齢化、また麻薬の乱用が小学生にまで及んでいること等の諸問題が顕在化しており、併せて子どもへの虐待が多発しており、子どもを取り巻く状況も大きく変化しています。

これらの対応策の一環として子どもの居場所づくりが必要ではないかとの指摘があり、文部科学省においては来年度(2004年)から「子どもの居場所づくり新プラン(仮称)～地域の大人たちの力を結集し、子どもの活動拠点を整備～」が実施されることになり、都道府県の関係者を集めて実施に向けての説明会が開かれたことが、昨年度から文部科学大臣の委嘱を受けて、私が参画している中央教育審議会の生涯学習分科会で報告がありました。

背景としては、前述の青少年の問題行動の深刻化に併せ、家庭の教育力の低下、地域の教育力の低下、また青少年の異年齢・異世代間交流の減少があげられています。

そこで2004年度から3ヶ年計画として全国400ヶ所、主として小学校を拠点として実施しようとするもので年間約70億円を投入し、「地域子ども教室推進事業」が新規に始まります。

地域の大人たちが放課後や土・日の週末に学校などを活用して、すべての小中学校を対象に、スポーツや文化活動など様々な機会活動の安全管理や指導のためのボランティアとして協力していくことが呼び掛けられています。

この展開にあたっては、地域の人材や組織の力を結集していくこととなっており、ボーイスカウトやガールスカウトなど青少年団体や関係者にも協力の呼び掛けがあります。

(次頁につづく)

(前頁よりつづく)

霊南坂スカウトとして、少年・少女時代に活動した人は50余年の歴史の中から数多く社会に巣立っています。若いときに得た人との出会い、様々なプログラムの経験を通して学んだことが何らかの形でその後の人生に少なからず影響があったのではないかと思います。

スカウト活動から体験したことを自分の住んでいる地域の子どもたちに還元していただけないでしょうか。

OB・OGとしてのスカウトクラブ全体としての様々な取り組みと同時に一人の地域人として住んでいる地域の子どものために、特にスカウト活動で

得た技術や技能を提供しませんか。

既にボランティアの一人として、またNPOのメンバーとして活動されている方も多いと思いますが、ボランティアの分野の中では福祉、高齢者、環境などの分野に比べて青少年のために活動しているボランティアは数パーセントに過ぎません。

「子どもの居場所づくり新プラン」が始まるこの機会にOB・OGの方が地域のおじさん、おばさん、できればコミュニティ・ペアレントの立場で青少年の育成のために、できることを、できるところで地域において何か始めてはいただけませんか。

ご両親が経営される本格中華料理のお店です。モリビル1Fです。

レポーター：POKEMON

E-mail / 電子メール

スカウトクラブの会報は年に3回、あるいは多くて4回となっています。

3~4ヶ月の間に事柄によってですが、できるだけいろいろなことを皆さんに早くお知らせしたいと幹事会では希望しております。

そこで、現在E-mail Addressをお持ちの方は下記まで電子メールでアドレスをお知らせください。会員・未加入会員を問いませんのでお気軽にご連絡ください。(河内宛)

連絡先： E-mail Address
riverys@fancy.ocn.ne.jp

お願い

住所変更等の連絡

会員OB、OGなどの方で転居をされた方、また名簿に記載されていないOB、OGの住所などをご存知の場合は幹事までご連絡ください。

会員登録されている、いないに関わらず霊南坂スカウトとして一度は登録されたことのある人が学校などの同窓会名簿などで判る場合は幹事に連絡をお願いします。できるだけ会報を多くの方々に送付するためです。会員登録されていない場合は会報を毎回送付しないこともありますが、年1~2度は、非会員の方々へも送付していますので、霊南坂スカウトとして在籍していた方々についてご存知の場合は、是非ご連絡ください。

意見・寄稿を募集中

広く皆様のご意見や寄稿を募集しています。ビジネスに役立つ情報交換を希望される方からのものも掲載していきますので共有できる情報を左記の幹事宛に送付ください。

編集後記

今回の会報は昨年11月に出す予定でしたが、いろいろな事情により今年1月になりました。総会には出来るだけ多くの方々が出席いただけることを願っています。今年の4月にはバスピクが復活、是非多くのご参加を!

お店紹介

中華料理 & 喫茶

エリー

地下鉄神谷町を利用する時は有りませんか? 風の強い日でも、雨の日でも、又又雪の日でも、震える事もなく濡れる事もなく、おいしい中華料理を堪能出来るお店が朱さんが経営するエリーです。

神谷町の改札口を出て右に行く事数十歩外に出る事もなくビルの地下飲食街にそのお店はあります。

朱さんのご厚意により、幹事会等よく利用させて頂いており、毎回朱さん

にお任せのメニューで食べきれない程出して頂きバック詰めにしておみやげに持ち帰る程です。種類はおいしいし、チャーハンも格別、エビチリなど一品料理も最高です。それに加えお酒好きには、珍しい瓶だしの<ショウウ酒>も絶品です。まだまだお薦めの料理は書ききれない程ありますので、いちどご自分のお口でお試ください。営業時間 11:00 am-9:00 pm

土日祝日は休業

住所：港区虎ノ門5-13-1 MT 40ビル
Tel: 3431-3054

うれしい事に、朱さんのご厚意により、前もってご連絡いただければスカウト関係者にはありがたいスカウト割引やメニューにない特別料理の相談にもっていただけるそうです。なお、1階の中華料理<永利菜館>は、朱さんの

霊南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・移転連絡等：

(郵便) 107-0062 東京都港区南青山7-11-5 日下部 宛

(ファクス) 03-3400-0399 (電話) 03-3400-0331

イベント・各種問合せ：

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門2-4-2 永山 宛

(ファクス) 03-3431-0192 (電話) 03-3431-0011

(E-mail) shige827@sf6.so-net.ne.jp

会費・ご寄付等：

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-5 杉原 宛

(電話/ファクス) 03-3501-3998

郵便局振込口座番号：霊南坂スカウトクラブ

00160-1-615237

通信・ご意見等：

(郵便) 150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-3-303 河内 宛

(ファクス) 03-3464-8276 (電話) 090-4919-2941

(E-mail) riverys@fancy.ocn.ne.jp